



テキストチェックゼミ 第1回

～ガイダンス、第1章～第2章第2節～

TAC監査論講師
岡田 健司



ガイダンス～テキストチェックゼミの目的～

■最終的な目的

「体系的に監査論を理解するためのヒントと勉強方法を提供」

■このテキストチェックゼミの主眼(受講する意義)

1. テキストの意味内容(深い意味)を整理する
2. テキスト間・論点間のつながりを明示する
3. 他の受講生のレベルを知る

※注意点※

最大限効果を高めるために、**予習を前提**とし（但しガチの暗記不要）、かつ、2時間という限られた時間での進行であるので**全ての論点を網羅したものではない**点に注意してください。



ガイダンス～今後の進行（予定）～

	日程	主な内容（学習テーマ）	該当図表	テキストの範囲	該当頁
1	1月8日	ガイダンス、第1章（財務諸表監査総論）及び第2章（監査の実施）から主に監査の必要性、財務諸表監査の目的・前提・機能、監査主体の条件、監査実施の全体像、監査意見形成の論理	図表1	第1章～第2章第2節	1頁～51頁
2	1月22日	第2章（監査の実施）から主に監査手続、監査証拠、内部統制、試査、リスク・アプローチ、リスク評価と対応、特検リスク	図表2	第2章第2節～第5節	52頁～118頁
3	2月12日	第2章（監査の実施）から主に会計上の見積り、監査上の重要性、監査計画、グループ監査、経営者確認書	図表3・4・5・6	第2章第5節～第8節	119頁～164頁
4	2月26日	第3章（監査報告）	－	第3章	165頁～212頁
5	3月12日	第4章（個別論点）から主に不正等への対応、継続企業、監査役等とのコミュニケーション、KAM、後発事象、契約の新規の締結及び更新、監査人の交代、その他の記載内容	図表7	第4章	213頁～284頁
6	3月26日	第5章（保証業務）から主に四半期レビュー、内部統制監査、特別目的の財務諸表に対する監査	－	第5章	285頁～352頁
7	4月16日	第6章（監査制度）から主に法令違反等事実、監査人の独立性、概念的枠組みアプローチ、守秘義務の解除、監査基準の改訂の歴史その他横断的に論点を整理	－	第6章含む全範囲	全範囲



第1回(主な学習テーマ)

■第1章(財務諸表監査総論)

監査の必要性(5頁)、財務諸表監査の目的(22頁～25頁)・前提(26・27頁)・機能(28頁～30頁)、監査主体の条件(32頁～40頁)

■第2章(監査の実施～監査実施論～)

監査実施の全体像(44頁～46頁)、監査意見形成の論理(48頁～51頁)



第1章(財務諸表監査総論) 第1節

Q1-1

「なぜ財務諸表監査が必要なのか、簡単に説明してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第1節

Q1-1

「なぜ財務諸表監査が必要なのか、簡単に説明してください」

A1-1 該当テキスト頁:5頁

- **2つの視点**(①利害関係者が財務諸表の信頼性を確かめたい理由、②実際にはそれが難しい理由)で整理、書くべきポイントは**計5つ**(①で3つ、②で2つ)です
- **関連する論点**として思い出せるとよいのは、監査人の条件(32頁)、会計方針の選択や変更(171頁・209頁)、会計上の見積りの特徴(119頁)、監査報告書の意義(168頁)、法制度(第6章) など



第1章(財務諸表監査総論) 第1節・第4節

Q1-2

「では、財務諸表監査を実施する主体に求められる『条件』は何か、最も重要だと考えられるものを2つ列挙してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第1節・第4節

Q1-2

「では、財務諸表監査を実施する主体に求められる『条件』は何か、最も重要だと考えられるものを2つ列挙してください」

A1-2 該当テキスト頁:32頁

- ①**職業的専門家としての能力**(33頁)、②**独立性**(34・35頁、外観的独立性まで絞ってもOK)
- 監査人の条件(32頁～40頁)から思い出す、適格性要件とは端的には「入り口要件(資格要件)」、職業的義務は実際に監査人になった人の義務という違いから、入り口要件に該当するものを列挙するのが適切、なお、適格性要件や職業的義務といった用語自体の暗記不要(オープンチャット参照)



第1章(財務諸表監査総論) 第1節

Q1-3

「『財務諸表の相対的性格』とは具体的にはどういうことか、
簡単に説明してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第1節

Q1-3

「『財務諸表の相対的性格』とは具体的にはどういうことか、簡単に説明してください」

A1-3 該当テキスト頁:119頁・171頁・209頁

- ①**会計方針**は複数認められたものから**経営者の判断**で選択・変更が可能であること(171頁・209頁参照)、②**会計上の見積り**は将来に対する**主観的な予測**や**一定の判断**が求められ、**経営者による仮定、データ、見積手法の選択**が求められること(119頁)



第1章(財務諸表監査総論) 第2節

Q1-4

「企業会計審議会の監査基準の設定前文では、監査基準はどのようにその基本的性格が定義されているか、説明してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第2節

Q1-4

「企業会計審議会の監査基準の設定前文では、監査基準はどのようにその基本的性格が定義されているか、説明してください」

A1-4 該当テキスト頁:14頁

- テキスト14頁(1)のとおり。ここから導きだされる性格がテキスト15頁(3)の3つ(①実践可能性、②公正妥当性、③規範性、①かつ②だから③という帰結に注意)です
- 一方、例外的に法令(金融商品取引法)によって上場企業等にのみ適用が強制される監査の基準が「不正リスク対応基準」(224頁(2))であることも併せて整理しておきましょう



第1章(財務諸表監査総論) 第2節

Q1-5

「適用される財務報告の枠組みである企業会計の基準について、
①経営者にとっての意義、②監査人にとっての意義をそれぞれ一言で説明してください(適正表示の枠組みを前提とします)」



第1章(財務諸表監査総論) 第2節

Q1-5

「適用される財務報告の枠組みである企業会計の基準について、
①経営者にとっての意義、②監査人にとっての意義をそれぞれ一言で説明してください(適正表示の枠組みを前提とします)」

A1-5 該当テキスト頁:19頁

- 経営者にとっては適正な財務諸表作成に当たって準拠すべき**作成基準**、監査人にとっては適正かどうかを判断するに当たっての**判断基準**



第1章(財務諸表監査総論) 第2節

Q1－6

「監査基準は何部構成になっているかその内容とともに説明してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第2節

Q1-6

「監査基準は何部構成になっているかその内容とともに説明してください」

A1-6 該当テキスト頁:20頁

- **4部**構成、すなわち第1 監査の目的、第2 一般基準、第3 実施基準、第4 報告基準
- **一般基準**は四半期レビュー基準(288頁)や中間監査基準(306頁)にはないこと、その位置づけ(監査人の条件や義務、業務全般において遵守すべき全般的事項を定めたもの)について知っておきましょう



第1章(財務諸表監査総論) 第2節

Q1-7

「では、監査基準の一般基準に規定される項目を列挙してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第2節

Q1-7

「では、監査基準の一般基準に規定される項目を列挙してください」

A1-7 該当テキスト頁:20頁

- **7つの規定**から構成、①職業的専門家としての能力(33頁)、②独立性(34頁)、③職業的専門家としての正当な注意と懐疑心(36頁)、④監査全般にわたっての不正等への注意(216頁)、⑤監査調書(136頁)、⑥⑦監査の品質管理(259頁)、⑧秘密保持(38頁)
- このように一般基準は**①監査計画、②監査の実施、③意見の形成の3つに表される監査のあらゆる局面に共通的に関連する事項**が規定されています



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1－8

「監査基準では、『監査の目的』はどのように規定されているか、簡単に説明してください(適正表示の枠組みを前提とします。)」



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1-8

「監査基準では、『監査の目的』はどのように規定されているか、
簡単に説明してください(適正表示の枠組みを前提とします。)」

A1-8 該当テキスト頁:22頁

- テキスト22頁のとおり。**末広がり**に**表現**することが望ましいです(オープンチャット参照)。
- **前段**が本来的な目的、**後段**がその補足説明、という位置づけでした。

最終的には完全な暗記が必要です。



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1－9

「では、監査基準の監査の目的ではなぜ、『全体として』『重要な』虚偽の表示がないこと、という表現になっているのか、簡単に説明してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1-9

「では、監査基準の監査の目的ではなぜ、『全体として』『重要な』虚偽の表示がないこと、という表現になっているのか、簡単に説明してください」

A1-9 該当テキスト頁:23頁

- テキスト23頁のとおり。主な論拠は3点です。すなわち、①財務諸表監査の意見の表明対象は「財務諸表全体」であるから、②重要ではない虚偽の表示は利害関係者の経済的意思決定に影響を及ぼさないから、③個々にみて重要な虚偽表示ではなくても財務諸表全体で集計して虚偽の表示が重要となることもあるから(125頁・127頁)、です。徐々に整理していきましょう(論対講義でまた取扱います。)



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1－10

「二重責任の原則は一般原則のどの規定と関係が最も深いか、説明してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1-10

「二重責任の原則は一般原則のどの規定と関係が最も深いか、説明してください」

A1-10 該当テキスト頁:26頁

- **独立性**です(34・35頁)。二重責任の原則が前提としてあるから、監査人の監査は独立した第三者による業務として社会から受け入れられることになります。



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1-11

「財務諸表監査の前提となる経営者の責任を簡単に説明してください、
適正表示の枠組みを前提とします」



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1-11

「財務諸表監査の前提となる経営者の責任を簡単に説明してください、
適正表示の枠組みを前提とします」

A1-11 該当テキスト頁:27頁

- 3つあります。すなわち、①適正な財務諸表を作成すること、②(①のための)内部統制を整備・運用すること、③監査人の監査に協力すること、3つ思い出せるようにしておきましょう
- なお、監基報200.12(2)に規定がありますので、検索できれば正確な暗記は不要です。



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1-12

「財務諸表監査において監査人が果たしている役割を4つ列挙して、それらを大きく2つに分類してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第3節

Q1-12

「財務諸表監査において監査人が果たしている役割を4つ列挙して、それらを大きく2つに分類してください」

A1-12 該当テキスト頁:28・29頁

- ①批判的機能、②指導的機能、③保証機能、④情報提供機能
- 財務諸表監査の過程において**経営者**に対して発揮される機能が①批判的機能、②指導的機能であり、監査報告書を通じて**利害関係者**に対して発揮される機能が③保証機能、④情報提供機能という分類です、よって**監査の受益者**には利害関係者はもちろんのこと、経営者も含まれることになります



第1章(財務諸表監査総論) 第4節

Q1-14

「監査人に求められる独立性の内容2つについて説明するとともに、一般的により重要だと言われているのはどちらか指摘してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第4節

Q1-14

「監査人に求められる独立性の内容2つについて説明するとともに、一般的により重要だと言われているのはどちらか指摘してください」

A1-14 該当テキスト頁:34頁

- ①**精神的独立性**については34頁(1)のとおり、②**外観的独立性**については34頁(2)のとおり
- 一般的により重要だと言われるのは**精神的独立性**です

なぜならば第三者からみて独立していないと思われるような状況があったとしても、監査人自身が独立して監査をしているんだ！という精神状態が保持されていれば監査の結果には問題がないからです



第1章(財務諸表監査総論) 第4節

Q1－15

「では、なぜ外観的独立性も必要とされるのか簡単に説明してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第4節

Q1－15

「では、なぜ外観的独立性も必要とされるのか簡単に説明してください」

A1－15 該当テキスト頁:35頁

- テキスト35頁の**3つ**の論拠のとおり



第1章(財務諸表監査総論) 第4節

Q1－16

「外観的独立性について、公認会計士法上の具体的な規制について説明してください」



第1章(財務諸表監査総論) 第4節

Q1-16

「外観的独立性について、公認会計士法上の具体的な規制について説明してください」

A1-16 該当テキスト頁: 382・383頁

- すべての会社に適用される規制が382頁(1)のとおり
- 公認会計士法上の大会社等に適用される規制が383頁の(2)①～③の3つの規制のとおり



第2章(監査の実施) 第1節

Q2-1

「監査のあらゆる局面、あるいは監査の全過程を意味する、
監査の『3つの段階』を列挙してください」



第2章(監査の実施) 第1節

Q2-1

「監査のあらゆる局面、あるいは監査の全過程を意味する、
監査の『3つの段階』を列挙してください」

A2-1

- ①監査計画、②監査の実施、③意見の形成です
- 場合によっては、④監査契約を含めることもあります



第2章(監査の実施) 第1節

Q2-2

「図表1に沿って、また、監査の3段階を意識しながら、
監査の監査意見の形成に至るまでの流れを説明してください」



第2章(監査の実施) 第1節

Q2-2

「図表1に沿って、また、監査の3段階を意識しながら、
監査の監査意見の形成に至るまでの流れを説明してください」

A2-2 該当テキスト頁:44頁・48頁・51頁

- 例えば、次のような回答です。『**監査計画**』に基づき財務諸表項目に対して設定した監査要点別に『**監査手続**』を実施し、当該財務諸表項目別に十分かつ適切な監査証拠を得る。これらの監査証拠を監査意見の表明対象である財務諸表全体に統合のうえ最終段階の分析的手続を実施し、財務諸表全体に対する意見表明の基礎を得て、財務諸表全体に対する『**意見を形成**』する。



絶対に合格して
会計士になろう！



絶対合格宣言！